

2017 年行事予定

- 11月11日(土) 臨床検査の日
日本臨床衛生検査技師会
- 11月16日(木) 第64回日本臨床検査医学
~19日(日) 会学術集会、平成29年度
第3回全国幹事会、第51
回日本臨床検査専門医会
総会・講演会
- 12月9日(土) 第3回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
全国幹事 橋口 照人

臨床検査医の identity について思う

臨床検査医の identity について様々な意見のある中で、私見を述べてみたいと思う。専門性の高度化による診療科の細分化が進む時代において、どの診療科よりも病態を幅広く捉え opinion を発する立場の専門家の集団でありたいと考えている。診療科の細分化の波は大学改革における教養部の消滅にどこか似ているように思う。その中で臨床検査医学は、基礎・臨床を含む医学・医療における教養学部的存在であり続けたい。それは、各分野の専門家の集合体であった、所謂、地方大学における教養部ではなく、リベラル・アーツを教育する東京大学教養学部のようなしっかりとした立ち位置(identity)をもった一つの学問体系であって欲しいと考える。かつて、杉田玄白の言葉に「患者に対して病気の『病名』を告げるのは、病名を教えないと患者が医師を信用しないから方便としていうのである。大事なことは患者の心身の状態を適切に判断し、治療の方針を決めることである。病名は、人にはそれぞれ名前がついているが個々の人格とは無関係なのと同様に、本質的にはあってもなくてもよいのである」とある。臨床検査医にとって診断名は「方便」と捉え、しっかり病態を説明できることを「業」となす専門家の集団でありたい。極端な言い方をすれば、臨床検査医にとっての RCPC において最終診断はあってもなくても良いと考えている。アインシュタイン自身の書いた相対性理論の論文が中学程度の初等数学の知識だけで基本的なことが分かるように書かれているように、最高難度の病態を中学生に分かるように説明できる医師がいるならば臨床検査医であって欲しいのである。このような立場で臨床検査医の存在を示そうとするには、相当の努力が必要である。そのためには医学知を愛する人間になることであろう。臨床科の専門性の壁を越え、基礎・臨床の壁を越えて病態生理を幅広く一元的に捉え深めていく姿勢を常に培う努力が必要であろう。「医学知の統合医」として基礎・臨床・教育に大きく貢献する「攻める臨床検査医」でありたいと願う。このようなロールモデルとしての臨床検査医が一人一人増えていき、やがて大きな潮流となる日が必ず来ることを信じているのである。

【目次】

p.1	巻頭言：臨床検査医の identity について思う
p.2	事務局からのお知らせ、第34回臨床検査専門医認定試験について、平成30・31年度日本臨床検査専門医会会長および監事選挙結果について、「全国検査と健康展」ご協力のお祝い、第51回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ
p.3	第64回日本臨床検査医学会学術集会関連行事、第28回(平成30年度)春季大会のお知らせ、第86回教育セミナー報告、第34回臨床検査振興セミナーについて、日本臨床検査専門医会ネットワーク活用のお祝い、臨床検査振興協議会ノベルティグッズのご案内、平成29年度行事予定、平成29年度会費振り込みのお祝い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について
p.4	会員の声：臨床検査専門医として、第4の人生、臨床検査専門医試験を受験して
p.5	会員の声：「新人」の臨床検査専門医としてどうかよろしくお祈りします
p.6	会員の声：臨床検査専門医となって、編集後記

ログインされましたか？
臨床検査専門医会ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804
E-mail: senmon-i@jaclp.org

HPアドレス (QRコードも対応)
<http://www.jaclap.org/qa/login>



【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2017年10月1日現在 会員数 777名、専門医 633名

《新入会員》(敬称略)

大門 雅夫：東京大学医学部附属病院 検査部
 高橋 千春：順天堂大学医学部 臨床検査医学講座
 川上 徹：一宮西病院 臨床検査科
 西上 隆之：製鉄記念広畑病院 臨床病理検査科
 榎原 康亮：労働省健康安全機構 九州労災病院 病理診断科
 荒木 修：群馬大学医学部附属病院 検査部
 井上 暢子：広島大学病院 輸血部
 中尾 倫子：東京大学医学部附属病院 検査部
 森山 雅人：新潟大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍内科学分野
 松田 圭二：帝京大学 外科
 高松 博幸：金沢大学 血液・呼吸器内科
 柳沢 龍：信州大学医学部附属病院 輸血部
 松村 康史：京都大学医学部附属病院 検査部
 山本 正樹：京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部
 別府美奈子：千葉大学医学部附属病院 検査部
 紺野 啓：自治医科大学 臨床検査医学
 小島智亜里：埼玉医科大学 腎臓内科
 石津 智子：筑波大学医学医療系 臨床検査医学
 長井幸二郎：徳島大学病院 検査部
 橋詰令太郎：三重大学医学系研究科 修復再生病理学
 若松 弘之：宇都宮記念病院 総合健診センター
 井戸健太郎：大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学

《所属・その他変更》(敬称略)

北村 聖：旧 東京大学医学教育国際研究センター
 新 国際医療福祉大学医学部 医学部長
 下澤 達雄：旧 東京大学医学部附属病院 検査部
 新 国際医療福祉大学医学部 臨床検査医学/
 同 三田病院
 櫻林郁之介：旧 一成会さいたま記念病院
 新 医療法人峰昭会
 さいたまセントラルクリニック 理事
 増田亜希子：旧 東京大学医学部附属病院 検査部
 新 社会福祉法人 三井記念病院臨床検査科 科長
 横井 豊治：旧 名古屋掖済会病院 病理診断科
 新 津島市民病院 病理診断部
 太田昭一郎：旧 佐賀大学 医学部分子生命科学講座
 新 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部
 医学検査学科
 松尾 収二：旧 天理医療大学 臨床検査学科
 新 公益財団法人 天理よろづ相談所病院
 臨床検査部 臨床検査部長
 佐竹 宣法：旧 徳島県立中央病院 検査診断科
 新 吉野川医療センター 臨床検査科部長
 千葉 貴人：旧 飯塚病院 皮膚科
 新 飯塚市立病院

《退会会員》(敬称略)

藤田 信一

《訃報》

後藤 峰弘 先生 2016年ご逝去
 鈴木 洋司 先生 2017年2月9日ご逝去

ご冥福をお祈り申し上げます。

日本臨床検査医学会による第34回日本臨床検査専門医試験は2017年8月5～6日に杏林大学で実施され、本年度は29名が合格されました。合格者のうち26名は本会会員の先生方です。合格おめでとございます。今後のご活躍を期待します。

(50音順/敬称略)

朝比奈 彩、荒木 修、石津 智子、岩泉 守哉、
 海老原文、川口 将也、黒沢 幸嗣、佐久間貴彦、
 清水辰一郎、清水 利昭、鈴木啓二郎、大門 雅夫、
 高野 勝弘、高松 博幸、長井幸二郎、中尾 倫子、
 西上 隆之、橋詰令太郎、別府美奈子、松井 啓隆、
 松村 康史、眞鍋 明広、森 三佳、森山 雅人、
 柳沢 龍、矢野 彰三、山本さやか、山本 正樹、
 涌井 昌俊

【平成30・31年度日本臨床検査専門医会会長
および監事選挙結果について】

日本臨床検査専門医会平成30、31年度会長・監事選挙は9月24日に開票され、以下の結果となりました。

1. 会長選挙結果

投票総数：253票、有効投票数：247票、無効投票数：6票
 1位：登 勉 243票(98.4%)
 白票 4票

2. 監事選挙結果

投票総数：449票、有効投票数：445票、無効投票数：4票
 1位：佐守 友博 23票
 1位：土屋 達行 23票
 次点：康 東天 10票
 白票 16票

【「全国検査と健康展」ご協力お願い】

今年度も日本臨床衛生検査技師会の各都道府県技師会が実施する「全国検査と健康展」を共催いたします。本年度は10月1日～12月10日まで全国21会場での共催を予定しており、「健康相談・検査説明」にご参加(出務)いただける先生を募集中です。ご協力いただいた先生方には、参加証明書をお渡しします(臨床検査専門医更新基準での更新単位1単位となります)。ご協力いただける先生は事務局までお問い合わせください。

【第51回日本臨床検査専門医会総会・
講演会のお知らせ】

第51回日本臨床検査専門医会総会・講演会は第64回日本臨床検査医学会学術集会(京都)時に以下の日程で開催予定です。(国立京都国際会館)

開催日時：2017年11月16日(木)

総会 11:00～11:30

講演会 11:30～12:30

講演会「新専門医制度における臨床検査専門医」

司会：三宅 一徳(順天堂大学医学部附属浦安病院)

演者：山田 俊幸(自治医科大学臨床検査医学)

【第 64 回日本臨床検査医学会学術集会関連行事】

第 64 回日本臨床検査医学会学術集会は 2017 年 11 月 16 日(木)～19 日(日)に国立京都国際会館で開催されます。本会では以下の共催行事を予定しています。

＜共催シンポジウム＞

「10 年後に臨床検査室は今のままでいられるのか

ー臨床検査の多様化とコスト削減の圧力ー

開催日時：2017 年 11 月 17 日(金) 14:40～16:40

司会 本田 孝行(信州大学)

岡田 健(岡山大学)

1. IoT が支配する検体検査室
黒岩 正康(シスメックス株式会社)
2. テーラーメイド医療と検査室
中谷 中(三重大学医学部附属病院オーダーメイド医療部)
3. 生理検査の展望
松村 敬久(高知大学医学部病態情報診断学講座)
4. 検査室のトータルコーディネーター
瀬戸山 友一(LSI メディエンス)

＜共催ワークショップ＞

「新専門医時代～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」

開催日時：2017 年 11 月 18 日(土)

10:00～11:40 ポスターセッション

11:40～14:10 昼食懇談会(軽食つき、無料)

13:10～14:10 グループディスカッション

開催場所：国立京都国際会館 Room553(5F)

日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会と本会が共催いたします。本ワークショップは、一昨年度までの若手医師の意見交換座談会「臨床検査を学ぶ若手医師の会」の後継企画です。日頃は知らない同士の先生方が悩みや疑問を共有、先輩からのアドバイスをもらえる交流の場を提供します。学問的な雰囲気とは少し違った空間に、是非、ご参加ください。

【第 28 回(平成 30 年度)春季大会のお知らせ】

平成 30 年度第 28 回春季大会は以下の日程で開催予定です。

大会長：本田孝行 教授(信州大学医学部病態解析断断学)

テーマ：臨床検査医の未来への戦略

日 時：平成 30 年 5 月 11 日(金)14:30～12 日(土)15:20

会 場：信州大学医学部附属病院 外来棟 4 階大会議室

5 月 11 日夜には懇親会が予定されています。奮ってご参加下さい。

【第 86 回教育セミナー報告】

平成 29 年度日本臨床検査専門医会第 86 回教育セミナーは下記の要領で開催されました。本年度は 42 名の会員が参加されました。各領域の基本的な知識・技術についてのレクチャーのほか、本年は昨年度臨床検査専門医試験に合格された先生方からも講演いただきました。

実施日時：平成 28 年 5 月 21 日(日)

実施場所：帝京大学霞ヶ関キャンパス

【第 34 回臨床検査振興セミナーについて】

第 34 回臨床検査振興セミナーは、以下の日程で開催されました。本年は「臨床検査の保険適用と課題」をテーマに、宮地勇人 先生(日本臨床検査医学会理事)に「遺伝子関連検査の品質保証と法整備」、登 勉 本会会長に「保険適用でない高額検査と医療～LDT は解決策となるか?」、横地常弘 氏(日臨

技代表理事・副会長)に「臨床検査の認知度(保険適用について)」についてそれぞれご講演いただきました。80 名を越える参加者があり盛会裏に終了しました。

日 時：平成 29 年 7 月 21 日(金) 14:00～17:00

会 場：東京ガーデンパレス

【日本臨床検査専門医会ネットワーク活用のお祝い】

日本臨床検査専門医会ネットワークは 2016 年 3 月より稼働いたしました。より多くの会員の皆様に活用いただくため、ログインメールアドレスおよびパスワードを会員各位に文書で再送付しております。是非ご活用下さい。

【臨床検査振興協議会ノベルティグッズのご案内】

本会が会員として参加する臨床検査振興協議会では「りんしょう犬さん」をモチーフとしたクリアファイル、ステッカーシール等のノベルティグッズを製作しております。本会会員の先生方には教育、啓発、宣伝活動等にこれらのグッズを無料でご利用いただけますので、本会事務局までご請求下さい。

【平成 29 年度行事予定】

11 月 11 日(土) 「臨床検査の日」

日本臨床衛生検査技師会：全国検査と健康展

(本年度も共催いたします。ご協力をお願いします。)

11 月 16 日(木)～11 月 19 日(日)

第 64 回日本臨床検査医学会学術集会(国立京都国際会館)

11 月 16 日(木) 10:00～11:00 第 3 回全国幹事会(Room104)

11:00～12:30 第 51 回日本臨床検査専門医会

総会・講演会

12 月 9 日(土) 15:00～ 第 3 回常任幹事会(新旧合同常任幹事会)

(日本臨床検査医学会事務所：予定)

【平成 29 年度会費振り込みのお祝い】

平成 29 年度の会費振込用紙をお送りしましたので振込をお願い致します。未納分のある会員の方々には合計額をお振込ください(納入状況は振込用紙に記載致します)。

なお、満 70 歳以上の正会員の年会費は、5,000 円です。

平成 29 年度年会費：10,000 円

(2017 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方：5,000 円)

郵便振込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメールでご連絡下さい。

＜連絡先＞日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話・FAX：03-3864-0804 アドレス：senmon-i@jaclp.org

【会員の声】

臨床検査専門医として

2016年度より臨床検査専門医の仲間入りをさせていただき、宮崎大学内科学講座免疫感染病態学分野の高城一郎と申します。私は1998年に久留米大学を卒業後、宮崎医科大学附属病院第2内科に入局し、膠原病感染症グループに所属しました。2006年の講座再編に伴い、臨床検査医学講座は内科学講座免疫感染病態学分野(膠原病感染症内科)となり、私は岡山昭彦教授の御指導のもと、臨床ならびに研究、教育に研鑽を積むこととなりました。岡山教授は検査部および感染制御部の部長も務めておられたので、臨床検査医学という学問に関わり、また多くの臨床検査技師さんと交流する機会を与えていただきました。大学院の際には優秀な臨床検査技師の方々と一緒に実験をさせていただき、HTLV-1に関する研究論文で学位を取得することもできました。今回の臨床検査専門医試験は、これまで受験した専門医試験(内科、感染症、リウマチ)の中で一番大変でしたが、幅広い分野の知識を整理することができ、また実技も学ぶことができ有意義だったと思います。今回取得した臨床検査専門医を機に、診療科医師と臨床検査技師の両者をつなぐ架け橋となり、病院診療に貢献できればと考えております。

当院検査部の最近の出来事として、第一に細菌検査の365日体制化、第二に緊急検査以外の時間外検査開始、そして第三に「検査部アンケート」があります。検査部アンケートは毎年、検査部の全業務について診療科から意見や要望を頂くものですが、診療科からの要望は多岐にわたり、無理難題なこともあります。しかし可能なことは計画的に実施し、無理なことはなぜ出来ないかの理由を述べ真摯に対応することにより、診療科から高い評価を頂いているようです。また、2016年6月には宮崎県初のISO 15189認定施設となる事が出来ました。検査業務・教育・研究を推進し、ますます成長していくことが期待されます。

現在私は膠原病感染症内科の診療をしながら、感染制御部、検査部で仕事をしておりますが、検査部にも所属することで、検査部医師としてすべきことが徐々にわかってきたように思います。専門医を取得したものの、まだまだ未熟であります。専門医取得を今後のキャリアのスタートと考え、よりいっそうの研鑽を積み、臨床検査医学の発展、最新・最適な医療を提供できる大学附属病院の機能向上などに貢献していきたいと思っております。今後とも変わらぬ御指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、今回の専門医取得に際し、御指導くださいました岡山教授、専門医会の教育セミナーなどで御講演いただきました先生方、また忙しい業務の合間に実技指導していただいた臨床検査技師の皆様感謝いたします。

(宮崎大学内科学講座免疫感染病態学分野 高城 一郎)

第4の人生

順天堂大学臨床検査医学科の藍 智彦と申します。この度、JACL NEWSへ寄稿のご依頼を頂きました。臨床検査医学会のワークショップでの発表と多少重複いたしますがお許し頂ければと存じます。ワークショップでは“第2の人生”でしたが、第4だったかもしれません。私は1992年に大阪医科大学を卒業し、内科研修後、京都大学第3内科大学院に入学しました。現 滋賀医科大学循環器講座教授 堀江稔先生の下で臨床と基礎心臓電気生理学の研鑽をつみました。当時、カテーテルアブレーションは世界最先端の技術で、しんどくも楽しい毎日でした。また、パッチクランプ法でたったひと

つの電子の動きが記録できる事に驚き、イオンチャネル病の概念を学べた事は私の貴重な財産となっています。その後、人生色々あり、第2の人生をアメリカで送る事にしました。故郷を離れる時は“もうこの国には帰らないのだ”と思い、涙が止まりませんでした。最初は、Missouri大学でシングルチャネル法を勉強しました。この時、パッチクランプ法の発明者でノーベル賞受賞者のネーヤ博士の講演を聞く機会がありました。困窮の生活でしたが、“何時かは自分も”と寸暇を惜しんで研究しました。2004年にTexas Heart Instituteに移り、電気生理研究室の立ち上げにたずさわりました。心筋症で有名なTowbin教授と共同研究の機会があり、QT延長症候群の12番目の原因遺伝子を発見できました。それなりに順調と思われましたが、またも色々事件があり、心身ともに疲れ始めていました。2010年にIndiana大学より電気生理研究室の立ち上げを依頼されました。運よく、心臓での役割がよくわかっていなかったSK2チャネルの心不全に於ける役割を発見できました。しかし、この頃には、NIH研究費の獲得は非常に困難となっており、一流研究室の閉鎖が相次ぐ惨状を目の当たりにすると、到底基礎研究者としてやっていくのは無理だと思い、遺伝専門医を目指そうと思いました。何とかUSMLEに合格し、47歳の時、内科研修医に応募しましたが無残な結果でした。Match dayの朝、“We are sorry, you did not match to any position”というemailを受け取った時の無念さは一生忘れられません。しばらく虚脱状態でしたが、日本で遺伝専門医を取ろうと決め、東京医科歯科大学の木村教授を頼って単身赴任しました。さあ、第3の人生です。しかし、よくチェックすべきだったのですが、日本の遺伝専門医も2階建てで、また愕然としました。この年齢になると時間は非常に貴重です。最短で基本領域の専門医を取ろうという甘い考えで、東京医科歯科大学ERセンターの門を叩きました。臨床から離れていた私を、大友教授は快く受け入れてくれました。しかし、基礎研究とのギャップに戸惑い、また救急医の多くが感じる“やりきれなさ”もあり、1年余りで非常勤となってしまいました。今後どうしようと途方に暮れていたところ、木村研で臨床検査専門医を勧められました。幸い、近くに伝統ある順天堂大学臨床検査医学教室があり、三井田教授に連絡をとったところ、快く受け入れて頂きました。最初は何をやるのか戸惑ってました。今は、まだまだ未熟ですが、骨髄像の解読がすっかり楽しくなりました。また、種々遺伝子検査の導入にも参加させて頂き、研究でなく臨床検査としての遺伝子検査の難しさを感じています。奇跡的に、本年度の専門医試験に合格する事ができました。私の専門に関連する分野はそれなりにできましたが、免疫学、微生物、血液、輸血の問題は恐ろしく難しく、三鷹から打ちひしがれて帰りました。今でも何故合格できたか不思議です。でも、たまには人生良い事も無くてはやりきれません、。これからは、遺伝専門医、新しい分野の研究にチャレンジしたいと思っています。第4の人生の始まりでしょうか？今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

(順天堂大学臨床検査医学科/東京医科歯科大学ERセンター/難治疾患研究所 藍 智彦)

臨床検査専門医試験を受験して

この度、平成28年度から臨床検査専門医のお仲間に加えて頂くこととなりました成瀬寛之と申します。私は1993年に藤田保健衛生大学医学部を卒業しました。藤田保健衛生大学病院で2年間の初期研修後、1995年に循環器内科に入局させて頂きました。当時、冠動脈ステントが臨床応用され始めていたこともあり、カテーテルグループを希望し入れて頂き

ました。冠動脈造影検査や冠インターベンション(PCI)を中心に臨床を行いました。深夜の緊急検査など日常業務は大変でしたが、多くの臨床経験を積むことができました。同時期に心疾患に関するバイオマーカーの臨床研究を始めました。当時はバイオマーカーに特別な興味はなかったのですが、同じカテゴリーグループの石井潤一先生(当時、循環器内科、現臨床検査科教授)に勧められ研究を開始しました。1999年に急性心筋梗塞の早期診断における心筋型脂肪酸結合蛋白濃度測定の有用性に関する研究で学位を取得させて頂きました。その後、心筋トロポニンや高感度心筋トロポニンを用いた虚血性心疾患に関する研究、BNPやNT-proBNPを用いた心不全の検討など循環器領域で更なる研究をさせて頂きました。最近では、糖尿病、慢性腎臓病および担癌患者における潜在性心筋障害や予後評価に関する研究を開始し、他科との共同研究も積極的に行っています。20年以上に渡って臨床および研究でご指導を頂いている石井潤一教授に深く感謝申し上げます。

2013年から石井潤一教授が主宰する臨床検査科にお世話になることとなりました。臨床検査科への異動を機に臨床検査専門医について関心を持つようになりました。以前に取得された石井先生から試験の難しさをお聞きしていたのでなかなか受験に踏み切ることができませんでした。臨床検査領域の経験が少ない自分にとって知識習得の良い機会になるのではないかと考え受験を決意しました。準備を開始する中で最も困ったことは実技試験対策でした。試験の数ヵ月前から尿検査、血液検査、微生物検査および輸血検査部門の臨床検査技師の先生に御指導を頂きました。忙しい業務の合間に実技指導に時間を割いて頂き、臨床検査部の先生方に感謝申し上げます。試験はとて難しかったのですが何とか合格頂くことができました。試験を通じて臨床検査医として不足していた知識が明確となり、今後の生涯学習の参考になりました。準備は大変でしたが、良い経験ができたと思っています。

藤田保健衛生大学病院は1,400床を超える大学病院であり、検査件数は多く検査内容も広範囲に及びます。高い専門的知識を持った臨床検査技師の先生方が多く在籍されていますが、臨床側への円滑なフィードバックは今後の課題でもあります。臨床検査専門医試験を通じて臨床検査領域の知識を習得できたことは、臨床側への円滑なフィードバックを実践していく上で有用であったと考えています。検査側から臨床側に積極的にアプローチすることにより質の高い診療に貢献できると考えています。

臨床検査専門医としては未熟な私ですが、専門医取得を機にいっそうの研鑽をつんで参りたいと考えております。専門医会の先生方におかれましては御指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。最後に長年に渡って御指導いただいている石井潤一教授、石川隆志 副部長をはじめ臨床検査部員の皆様方に深謝申し上げます。

(藤田保健衛生大学臨床検査科 成瀬 寛之)

「新人」の臨床検査専門医として どうかよろしく申し上げます

はじめまして。旭川医科大学医学部臨床検査医学講座の藤井 聡です。平成28年度から臨床検査専門医の仲間入りをさせて頂きました。どうかよろしく申し上げます。私は昭和56年(!)に北海道大学医学部を卒業し、循環器内科に入局しました。安田寿一教授のもとで臨床に従事しながら、主に高血圧症関連の生化学的基礎研究を進め学位をいただくことができました。その後、海外留学をへさんで北海道大学病院で循環器内科医として勤務しながら、血栓症や動脈硬化症の研究を続けました。その後、名古屋市立大学大学院薬学研究科

病態解析学分野で、新たに6年制になった薬学部の学生に臨床薬学の教育をしました。同時に名古屋市立大学病院で血管内皮機能検査や動脈硬化症に関わる生理活性脂質やマイクロRNAの測定を続けたのち、平成26年に旭川医科大学臨床検査医学講座に着任いたしました。

旭川医科大学で新専門医制度での基幹施設としてのプログラム作成を手伝いながら、何とか小生も微力ながら北海道の臨床検査医学の発展や臨床検査専門医育成のお役に立ちたいと強く意識するようになり、臨床検査専門医受験を志望いたしました。専門医会のセミナーを受講しておくよう周囲から助言をいただき出席しました。会場で前のほうに座っていると、周りのかたから、「講師の先生ですか」と聞かれ、「いえ、皆さんと同じ受験生です」と答えました。セミナーでいただいた資料等を中心に筆記試験対策を行いました。実技試験については、本学の臨床検査・輸血部の臨床検査技師の方々から、忙しい業務の終了後に、実技指導をしてもらいました。思い返せば、ごく短時間に大変恵まれた環境で準備ができました。その一方で、もとより浅学の身ですから、指導いただいた方々の期待に応え良い結果を出せるのか、自分でも甚だ疑問に思いました。年のせい緊張感もないため家族からは、「試験の間、眠っちゃだめだよ」と妙に励まされ(?!), 平常心で受験しました。1日目の筆記試験は私の専門のところはよく分かり、分からないところはこれまでのサブスペシャリティの専門医、総合内科専門医、臨床検査管理医の勉強を総動員でした。2日目の実技試験はこれまでと形式がやや異なっておりました。しかし、それに違和感をいだくまでの力量もありませんから、分かるところはミスしないように、自信のないところはできるだけ頑張るという一心でした。試験終了時にはかなり疲労しました。けれども、それ以上に、7月23~24日の試験当日、冒頭に挨拶された矢富裕臨床検査医学会理事長はじめ宮地勇人 試験委員会委員長、大西宏明 試験実行委員長、そして筆記試験の問題作成、実技試験の機材、資材の準備、当日の面接官等、運営に携わった多くの実行委員の先生がたの苦労が大きかったことを強く意識し、一受験生として今も深く感謝と敬意の念をいただいております。結果の発表のあとは、お世話になった本学の技師お一人おひとりに心から感謝してお礼に回りました。

北海道の人口は540万人で北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学と3つの医育機関があります。しかし、臨床検査専門医はこれまで16名しかいませんでした。絶対的にマンパワーは不足しています。主体は内科系等から転身された先生がたです。今後は3大学がオール北海道で、他科から転身されるかたはもちろん、子育て中の女性医師や、道内特有の地域枠医師をターゲットに初期研修後の専攻医を育てるプログラム体制作りを構築することを願っております。北海道は他の臨床科の医師も不足していてニーズは高く、専攻医候補獲得のハードルは高いです。それにくじけず、地域医療ではマルチな役割も医師に要求されますから、臨床検査医学会の原案をもとに、道内3大学で協力しながら汎用性の高い技術習得など特色あるプログラムにしようと考えています。九州の2倍以上の面積に病院は分散しており、ICTを活用した遠隔医療の要請も高いですから、臨床検査専門医は検査結果を中心として医療機関間の情報マネジメントの観点からも活路を見いだせないかと思えます。今後のご指導をよろしく願います。

(旭川医科大学臨床検査医学講座/
同 大学病院臨床検査輸血部
藤井 聡)

臨床検査専門医となって

この度臨床検査専門医のお仲間に加えていただく事になりました慶應義塾大学医学部臨床検査医学教室の江原佳史と申します。私と臨床検査医学との出会いは、獨協医科大学3年生の臨床検査医学の講義でした。この講義で今まで学んできた基礎医学の知識がどのように臨床検査に応用・還元されていくのかという事を懇切丁寧に教えていただき非常に強く臨床検査医学に興味を持つようになりました。講義が全て終わってもこの興味は益々強くなり私は恐れ多くも、当時教授であられた家入蒼生夫先生に「勉強したいので臨床検査部に入りたいのですが、それは可能でしょうか」とメールをしたところ、「大歓迎です」と嬉しいお返事をいただき晴れて臨床検査部に入りますようになりました。臨床検査部の血液検査室では骨髓像の読み方を教えていただき、微生物検査室ではグラム染色や釣菌の仕方、培地への塗抹の仕方などを教えていただきました。また菱沼昭先生(現 獨協医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座教授)と遺伝に関する勉強会に参加させていただいたりと至れり尽くせりの毎日で非常に楽しかったことが今でも思い出されます。

臨床検査医学にはそのような経緯もあり強い興味はありましたが父が小児科医であった事、また開業医として一人で仕事をしている父を見て少しでも助けになればと思い、卒業後は地元の群馬に戻り初期臨床研修終了後、群馬大学小児科へ入局致しました。小児科医になってからも、OTC欠損症、CHDF施行中にHITを併発したHUS、新生児乳児消化管アレルギーなど臨床検査絡みの多い症例を持つことが多く小児科も面白かったのですが臨床検査医学への夢が捨てきれないでいました。2011年に小児科専門医を取得し、また兄弟が小児科になった事もあり、2013年に慶應義塾大学医学部臨床検査医学教室に入局致しました。

今年臨床検査専門医試験を受験しましたが、試験問題は想

像していたものよりもはるかに難しく、試験終了直後に「これは落ちた」と確信するほど自分の中で非常に感触が悪いものでした。9月16日の発表までは生きた心地が全くしませんでした。発表で奇跡的に合格した事を知り、まだ合格が信じられない状況です。臨床検査専門医試験は筆記、実技試験とも全体的に日常での検査部業務への関与と理解が問われている印象を受験して感じるところでした。少なくとも自分の所属先の検査室でどう精度管理がされているのか、自施設のパニック値、院内感染対策上重要な菌とその検出菌に対する対応、院内安全対策に関する対応(例えば針刺し事故の対応等)、各検査室での予期せぬトラブルへの対応は押さえておくべきであると思いました。また毎年行われている臨床検査専門医会主催の「教育セミナー」を受講する事が重要かと思われました。「臨床検査医学」の含有する範囲は多岐にわたりますので、このセミナーの講義で教わる様々な検査分野での重要なポイントを中心に勉強する事の重要性を試験後に痛感しました。試験に関しては決して最後まで諦めず、なるべく多少強引でも言葉で埋めて空白の箇所を作らぬようにする事も大事かと思いました。試験後は自分が出来なかった問題、わからなかった問題がフラッシュバックされてきて、ノイローゼ気味になっておりましたが何にせよ諦めない事が重要だと合格後に思いました。

まとまりの無い文章で恥ずかしい限りですが、現在の私は臨床検査専門医としては右も左もわからないほど未熟であります。しかし決してそのままの状態とならぬよう更なる努力を弛まず続けていく所存でありますので御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。また最後になりましたが今回の受験に際して大変お世話になりました慶應義塾大学医学部臨床検査医学教室 村田満教授、菊池春人講師、当大学病院中央臨床検査部の臨床検査技師の方々、また当大学輸血・細胞療法部の検査技師の方々に心より御礼申し上げます。

(慶應義塾大学医学部 臨床検査医学教室 江原佳史)

【編集後記】

皆様、はじめまして！今号から増田先生より編集主幹を引き継いでいただいた聖マリアンナ医大の五十嵐と申します。以後、宜しくお願いいたします。さて、今後なのですが、JACLaP NEWSにも新企画も少しずつ盛り込んでいければと考えております(面白そうな企画をお持ちの方がいらっしゃれば事務局までご連絡ください！)。それに関連して、原稿御執筆をお願いする機会があるかと思うのですが“愛されるJACLaP NEWS”を目指して頑張りたいと考えておりますので、皆様の御助力をお願いできれば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

(編集主幹 聖マリアンナ医科大学 臨床検査医学講座 五十嵐 岳)

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局
まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jacplp.org

日本臨床検査専門医会

会 長：登 勉、副会長：東條尚子(渉外委員会委員長)、本田孝行

監 事：高木 康、佐守友博

常任幹事：木村 聡(広報委員会委員長)、佐藤麻子(全国検査と健康展担当)、土屋達行(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、三宅一徳(庶務・会計幹事)、宮崎彰子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

全国幹事：浅井さとみ、五十嵐雅彦、上原由紀、大澤春彦、萱場広之、久川 聡、紀野修一、♫谷直人、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松下一之、村田哲也、柳原克紀、横崎典哉、和田隆志

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委 員：五十嵐岳、出居真由美、清水 力、信岡祐彦、福地邦彦、増田亜希子、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jacplp.org

